

高齢HIV感染者集団におけるフレイルは、 2030年までに倍増する予測

- 2009～2015年に収集されたイタリアのModena HIV Metabolic Clinicコホートの3,086例のデータに基づく「高齢者HIV」の個体ベースモデル
 - Frailty Index : 37項目のうち、加齢に伴い累積する異常所見を認める項目の割合
 - (FI < 0.3 : フレイルではない、FI = 0.3～0.4 : フレイル、FI > 0.4 : フレイルの程度が高い)
 - 転倒 : 過去12カ月以内に1回以上立位、歩行、屈曲位から地面に転倒したと自己報告した回数
 - 障害 : 日常生活動作における1つ以上の障害
- モデルから予測される2015年～2030年の変化は以下の通り :
 - ARTを受けているHIV感染者の年齢の中央値は49歳から59歳に増加し、50歳以上の割合は経時的に増加し続ける。
 - フレイルの程度が最も高いHIV感染者の割合は、24%から48%に増加する。
 - 29.9%が老年症候群を有し、34.0%が障害を有する。